



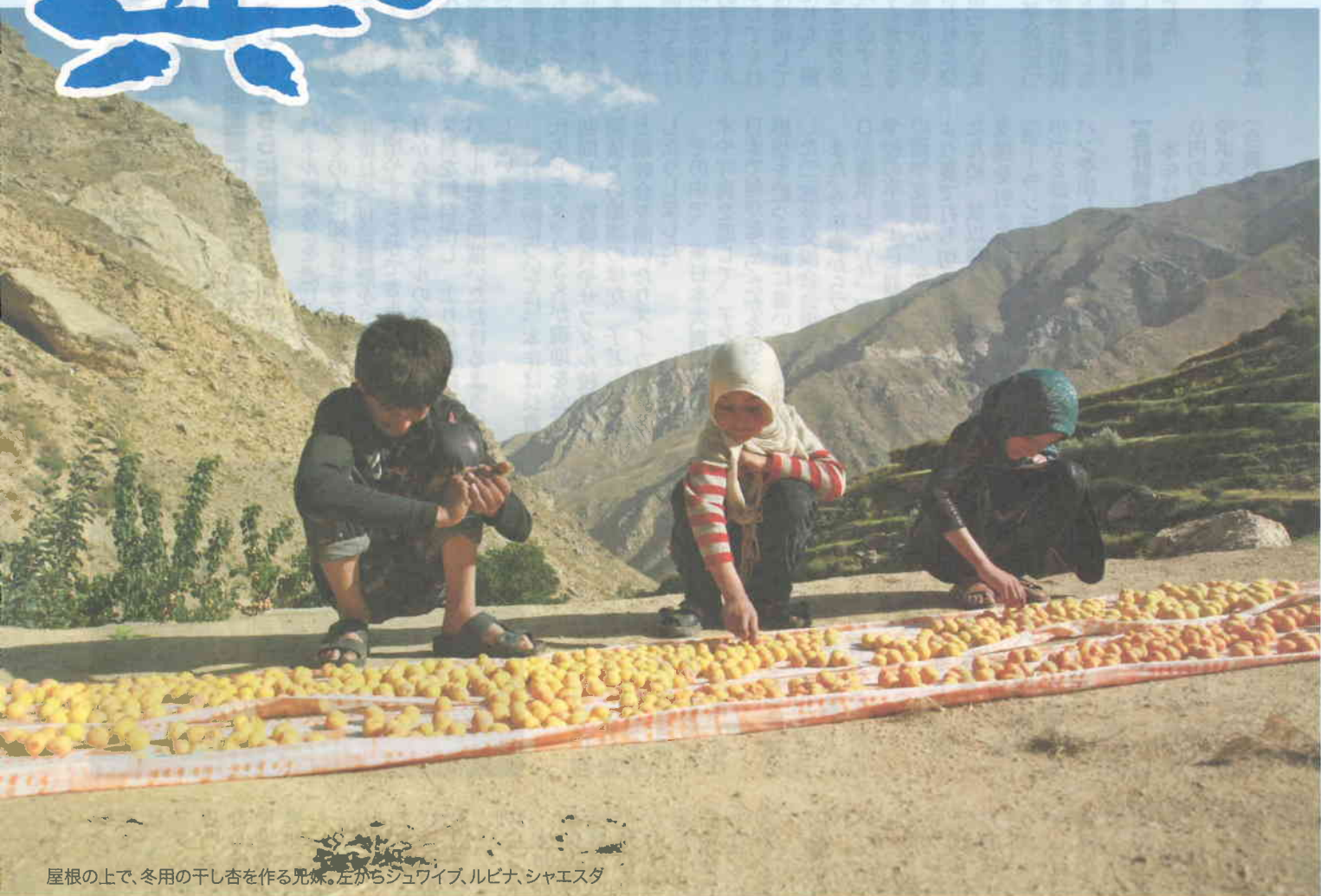
開催しました!

アフガニスタン山の学校だより **22号**

第8回総会&現地報告会

大阪・現地報告会

《別紙》第8回総会資料



屋根の上で、冬用の干し杏を作る児童。左からジュワイブ、ルピナ、シャエスタ

2011年も年の瀬を迎えようとしていますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年は東日本大震災ばかりでなく、東南アジアのタイや中米のエルサルバドルなどでも大規模洪水という災害が発生しました。世界各地で天候異変が続き、明るさが見えにくい中で、「山の学校支援の会」は今年も現地公式訪問、総会と大阪・現地報告会の開催という大切な行程を無事に終えることができました。そのことに深く感謝したいと思います。

会が活動を始めて8年。毎年、現地訪問をするたびに、子どもたちの背はすくすくと伸び、家の仕事を手伝う姿にもたくましさが増しています。そんな様子に、月日の早さを強く実感いたします。

10年間の支援を前提に開始した当会の活動もあと2年を残すのみとなりました。しかし10年を過ぎても、奨学金などの形で子どもたちを支えることができないうるかかと検討を続け、教育支援基金を創設することにいたしました。具体的な呼びかけについては、次号以降で詳しくお知らせいたしますが、会員の皆様には、これからも一層のご支援をお願いしたいと思います。この8年で、山の学校を巣立った子どもたちは約240人。彼らが羽ばたこうとしていますが、そのアフガニスタンの現実は厳しいものですが、その未来が平和で穏やかなものであることを願って止みません。同時に、震災で家族を失った東北の子どもたち、世界各地で苦難の中で生きている子どもたちに、希望の光が差すように祈っています。そうした思いを胸に、9年目となる2012年の活動に臨んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

長倉洋海

第8回総会&現地報告会を開催しました

10月1日(土)、東京・武蔵野芸能劇場に84名(会員58・一般26)の方々が集りくださいました。こちらに概要をお知らせします。

【代表挨拶：長倉洋海】

アフガニスタンの治安は現在でも良くなく、内外の政情不安を背景にむしろ悪化しているといえるかもしれません。しかし、女性が勉強できる環境づくりは着実に進んでいます。当会の支援する山の学校でも、今年卒業した女子生徒のほぼ全員(9名)が高等学校に進学することができました。民主化も含めて、この流れはもはや誰にも止められないのではないかと考えています。

ポーランドの人たちは、私たちが現地に行くたびに、心を開いて受け入れてくれています。今回の訪問でも、現地では貴重なはずのヨーグルトや羊肉で我々をもてなしてくれました。また以前は写真に登場してもらえなかったお母さんたちも、最近では笑顔で応じてくれることが多くなってきました。同時に、必ずといっていいほど、支援してくださいと会員の皆様への感謝の言葉をいただきます。これも毎年顔を合わせた交流を続けている成果だと思っております。

「サフダル校長遺児育英基金」については、現地で遺された家族と相談し、使途を決めることができました(次ページおよび「第8回総会資料」参照)。ご寄付いただきました皆様、本当にありがとうございます。

【活動報告：比留川征子】

国内活動としては、講演会や写真

パネル展などを通じて会の趣旨を多くの人に知らせることができ、本年度は受付会員数を965人にまで増やすことができました。また9月から写真パネルの会員向けリース料を無料化し、より気軽に写真パネル展を開催いただけるようになっています。

海外活動については、本年は長倉代表とスタッフ3名が現地を公式訪問し、教職員やサフダル校長の遺族との協議のほか、子どもたちと親睦会を開いたりスイカ割りをしたりしました。

その中で、東日本大震災のビデオや写真を通して、子どもたちに日本で何が起こったかを伝え、その感想を絵や手紙に書いてもらいました(一部を交流会会場で展示)。

また、今年春からフランスのNGOが提供していた、女子生徒(山の学校の卒業生)に対する高等学校への通学支援が、先方の予算不足により夏で打ち切られることになったため、秋以降は当会がその通学支援を引き継ぐこととしました(ポーランドと高等学校の間は徒歩で2時間程度かかるため、ミニバンを出して通学を支援)。

【会計報告：森桂子】

本年は国内活動費79万6000円のうち、およそ58万円を、書籍やポストカード販売等の事業収入(会費・寄付金以外の収入)で賄う



司会は、若手の大守裕が担当(今回初挑戦！)

ことができました。

また本来であれば年に22万円程度かかる会報の送料を、本年度は約3万円に抑えることができました。これは会員の皆様に書き損じはがき、切手をご提供いただいたおかげです。ご協力いただき、ありがとうございます。

当会は2014年3月で活動を終える予定ですが、それ以後も資金が続くかぎり支援を継続したいと考えています。内容として以下の3つを検討中です。

- ①教職員給与補助：1万2480ドル/年
 - ②高等学校への通学支援：36万円/年
 - ③大学・専門学校への就学支援(例えばカフルの大学へ進学する生徒への奨学金、下宿代等)
- ①は現在まで実施してきた活動の継続です。②は「活動報告」でお伝えしたとおり、この秋から卒業生の方の通学を支援することになったので、そのミニバンのチャーター代(運転手とガソリン代

込み)を今後も引き続き補助していきたいと考えております。また③は、今回皆様の協力を得まして、サフダル校長の遺児に対して大学・専門学校への就学を支援することになりました。これを機に、同じように進学したいけれども家庭の事情で進学できないような子どもたちにも、その機会を提供できないかという話になり、現在、奨学金制度のルールや必要額等を検討しております。2014年以降に発生するこれらの費用については、今後、基金の設立を考えております。

【スライドトーク：長倉洋海】

本年のスライドトークは例年と趣向を変え、今年の公式訪問の際の写真だけでなく、当会設立当初からの写真を交えて、子どもたちの成長がわかるような報告を行いました。まだ小さいアミン、ローヤ、マリナたちの姿に、8年の間にこんなに大きくなったのかと皆様感心して見入っておられました。

【会場からの質問・ご意見】

Q：2014年で活動終了とのことですが、この会の趣旨として、あと3年後に突然支援を打ち切るといふわけにはいかならないのではないのでしょうか？ 2014年以降の方向性について改めて聞かせてください。

A：当会は10年という約束で会員の皆様から資金を集めているわけですが、現実的には今後同じような体制で支援を続けていくのは難しいのではないかと考えています。ただし、皆様からいただいた資金が続く限り、2014年以降も引き続き教員への支援は続けていく予定です。

し、また先述のとおり、通学支援や大学・専門学校就学支援のための新たな基金も設立しようと考えています。2014年を過ぎたらすぐに手を引くというわけではなく、ひとつの区切りとして捉えていただければよいと思います。

Q：地域の人々や保護者との交流を深めるといった活動が、当会のポイントとなっていると思っております。現地にはもともと頻繁に行つた方がいいのではないのでしょうか？

A：ご意見ありがとうございます。予算的な制約があること、また運営委員もボランティアであり時間的な制約があること等を考慮すると、現実的には年1回以上の訪問は難しいかとは思いますが、いただいたご意見は今後の運営の参考にさせていただきます。

※誌面掲載にあたり、一部表現の補足や言い換え、要約をさせていただきます。



本年も会場でも書籍、商品販売しました。売上の一部または全額が当会に寄付されます。お買い上げいただいた皆様、ありがとうございます。

大阪・現地報告会 も開催!

10月8日(土)高槻現代劇場・文化ホール展示室にて開催。61名(会員28・一般33)の方々に参加していただきました。

長倉代表のスライドトークでは、この夏に公式訪問した際の現地の様子に加え、支援を始めた当時の子どもたちの写真もあり、すっかり大人びたその成長ぶりに、改めて8年の時の流れを感じました。

また、今年入学してきた初々しい1年生もいれば、今では山の学校を卒業して高校に通うようになった子どもたちもいます。これからのアフガニスタンを担っ

大阪の報告会は、アットホームな雰囲気があると聞いても魅力



ていく子どもたちの成長を、私たちの会が少しでも応援できることを嬉しく思いました。

事務局から

●第8回総会で配布した資料を同封いたしました。内容をご覧になり、ご意見やご感想などがございましたらぜひお寄せください。

●2011年度分割会費未納の方々に郵便振替用紙を同封させていただきます。残額は封筒宛名ラベル下段の数字で表示しています。なお、会費残額を一括納入されてもかまいません。

●前号会報でのお願いの後、不要切手、書き損じはがきをご提供いただきました。おかげさまで今回発送分はすべてそれらの切手で賄えました。ありがとうございます。引き続きご協力をお願いします。

●住所変更の場合は、お手数ですが事務局にご連絡をお願いいたします。

広がれ! パネル展のわ

□大阪府高槻市

11月3日、今村学園高槻幼稚園「ひなぎく祭」にてパネル展を開催しました。ちやるばーさんの音楽が流れる中、成長した子どもたちの写真を嬉しそうに眺める方や、長倉さんのことを話す子どもたちで賑わう一日となりました。(寄稿/阪口さやかさん 写真/林正規)

◆開催のお知らせ◆
【大阪府守口市】
日時: 2012年2月4(土) 13時~
会場: 守口市市民会館
主催: PTA母会と女教師の会
連絡先: 06(6999)5397
お近くの方、ぜひお運びください。



総会・現地報告会 アンケートより

【総会】

◆8回目を迎えた総会。支援の輪が着実に広がり、子どもたちの教育が未来への夢をかなえる希望に満ちて行われていることを知り、嬉しかったです。

◆報告をお聞きして現地のやはり厳しい状況と、少ない(決して多くない)予算の中で現地の事情に合わせ臨機応変に対応されていることがよくわかりました。

【現地報告スライドトーク】

◆現地の子どもの顔が、生活が、具体的に見られてとても良かったです。代表の撮られる写真と説明がわかりやすく、私は大好きです。8年間続けて見続けることは、

【ちやるばーオミニコンサート】

◆アフガニスタンの音楽はこんなにも静かな情熱と哀感が漂っているのですね。心にしみ、いつまでも聴いていたかったです。

【交流会】

◆いつもなごやかな会で山の学校と子どもたちがとても身近に感じられます。

◆楽しそうなスイカ割りの様子の映像、ほほえましかったです。

【支援の会活動】

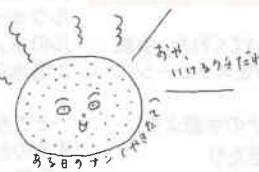
◆毎年現地訪問し、直接子どもたちや先生、家族などと一緒に過ごし、目に見える支援を実行していたにいたること、ありがたく思っています。

はじめてのアフガニスタン、山の学校(番外編)

文・イラスト/天野みか

今年初めて現地を訪れた運営委員の天野みか。道中に垣間見た、あちらの食についてのメモランダム。

食べ物の話は皆さん興味のあるところではないでしょうか? 食事の基本はナンとヨーグルトでした。ナンは、薄くて丸いの、日本でもよく見かける長くて大きくてもちもちしているの、ちょっぴり甘さを感じる茶色のパン状のなど。炒めごはんも毎回出してくださいましたが、これは特別のようです。滞在のお礼の一部として肉を買って持ってきたので、煮込みも出ました。いつもは月に一度くらいだそう。煮込みの味付けは、スパイスと塩、そして少量のトマトだと思えます。飼っている鶏の卵(地鶏!)の目玉焼き、いり卵、ゆで卵ができました。



コリアンダー、ネギ、カブ、青トウガラシ、ニラ、そしてトマトが生野菜として出ましたが、これは滞在の後半、野菜に飢えた私たちが玉ネギとナスと一緒に買ってお母さんに渡して実現しました。はじめは野菜を食べる習慣がないのかと思っていたのですが、実は物価高でなかなか買えないというのが理由でした。

また、牛も飼っている家だったので、前日の夕方にしぼった乳を朝ごはんにいただきました。砂糖たっぷりのホットミルク! バターも手作りでしたし、先に書いたとおりヨーグルトは必須アイテムでしたが、いちばん舌鼓をうったのは、生クリームのような、ふしぎな食感の食べ物でした。ナンにつけて食べました。ハチミツも美味しかったです。

果物も豊富で、口にしたものを列挙してみれば、スイカ、メロン、桃、杏、桑の実、サクランボ、イチジク、リンゴ。実は、どうやらメロン食べ過ぎをきっかけに後半の数日はお腹をこわしました……。



東京 & 大阪 交流会あれこれ

今年のお楽しみは、アフガニスタン音楽ユニット、
チャるばーさんのミニライブ。東京と大阪、両会
場での開催が実現しました。民族衣装に身を包ん
だ佐藤圭一さん(ルパーブ)とやぎちさとさん
(ヴォーカル・パーカッション)が奏でる幻想的な
調べに、皆うっとり…。



演奏していただいたのは5曲(さらに大阪では
アンコールも!)。今回チャるばーさんがお手製
のプログラムをご用意くださいました。その「演奏
曲目」の一部を抜粋しますと、例えば…

◆Kushti Tu Mara

タイトルを直訳すると「君は僕を殺した」ですが「たった一度の目配せで」と続きます。イスラム版「ロミオとジュリエット」とも云える悲恋物語「ライラとマジヌーン」の主人公が登場する叶わぬ恋の歌。美しいメロディと、韻を踏み対句となっている詩の語感をお楽しみ下さい。

◆Gol-e Man

「私の花」というタイトルの曲。「友(或いは恋人)よ、若い時は永遠には続かないのだから、やりたい事をやりなさい」と歌っています。明るい曲調が特徴です。



…といった感じ。「たった一度の目配せで」なんて、なかなかしゃれていますね。愛や人生を諭す内容に、グッと親しみが湧きます。曲紹介のほか、アフガニスタン音楽や楽器についての解説も書いてあり、これがまた明解! “聴いて楽し、見て楽し、読んでも楽し”というチャるばーさんライブでした。



大阪での衣装はこんな感じ。「回ってみて!」というリクエストに応じて

◎初の試みとして、
プリントセールを開催。
過去のパネル展で使った長倉代表撮影のプリント
をお手頃価格で販売、売上はすべて
会の活動費に。
好評でしたので来年もやりますよ!
お楽しみに。



◎開場前。サポートスタッフの方がお花も生けてくださり、会場は準備万端。あとは皆さんをお待ちするだけ。



◎カルダモンティーとお菓子を手に、参加者もスタッフもわいわい歓談。チャるばーさんの姿も見えますね。おふたりには衣裳や楽器についての質問がしきりに飛んでいました。

◎パコラ帽やブルカはおなじみの展示ですが、今年はペットボトルも!?
そう、現地訪問の際にスタッフがみつけたミネラルウォーター「パンシールの水」。国内でも知られた名水の地なんですね。



◎東日本大震災の映像や写真を見た子どもたちが一生懸命書いてくれた、手紙と絵を展示しました。中には、このようなアフガニスタンの古い詩をメッセージに添えたものも。



(9年生のローヤとシャボナの手紙より)
アダムの子らは互いに手足たり
一つの要素より創られたれば
ひとたび一本の手足痛むとき
他の手、他の足、また安からず
汝また他人の苦痛を悲しむことなくば
人とよばれる価値なかるべし

詩/サーアディー(13世紀のペルシャの詩聖)
訳/『ゴレスタン』岩波文庫、沢 英三訳

…ところで、運営委員一同が毎年胸をジーンと熱くするのが、当日手伝いに駆け付けてくださるサポートスタッフの方々のパワーと、ご参加の皆さんから頂戴する差し入れの数々です。差し入れは、焼き菓子や生花、今年はお手製のドライフラワーまで(会場テーブルにいつも同じドライフラワーを飾るのですが、毎年使うのでだんだんクたびしてしまい、それに気づいてくださり「新しいものをどうぞ」と!)。心から感謝いたします。

(写真/林 正規)



今年の新しい年生から4人をご紹介します! 写真/高橋美香

【報告】サファダル校長遺児育英基金

*同封の「第8回総会資料」6ページ目を併せてご覧ください。
会報19号のご協力のお願以来、趣旨にご賛同いただきました235名以上の皆様より、11月20日時点で189万9595円が集まっております。ありがとうございます。サファダルの家族も大変感謝しております。
この夏の現地公式訪問時にサファダルの家族と話し合いを持ち、基金の使途が決まりましたのでご報告させていただきます。基金より、サファダル存命中に当会が立て替えた医療費を差し引いた残額を次の目的に使用します。

- ①ファトナ(7年生)、シャボナ、パーセット(共に6年生)の3人が山の学校の中学を卒業する2015年3月までの生活補助および育英支援▼2011年9月まで60ドル/月、10月以降は60ドルに加え、生前サファダルが国から支給されていた給料分も補うこととし(家にほかの収入が切ないため)130ドル/月に引き上げ。今後物価変動に応じて月額の見直しもあり得る。
- ②成績優秀でなおかつ子どもたちから進学の希望がある場合、高校および大学・専門学校の就学支援▼①の残額を充てる。

子どもたちは以前にも増して勉強に励んでいます。皆様とともに今後の成長を見守っていききたいと思えます。